

## 書評 新刊 紹介



千葉県自然誌 本編4, 県史シリーズ 43

千葉県の植物1—細菌類・菌類・地衣類・藻類・コケ類

発行 千葉県 編集 財団法人千葉県史料研究財団

編集責任者 千原 光雄 835 ページ

頒布価格 9700 円 (税込み・送料別) 1998

近年、私はある植物の全国調査を行っていて、県市町村の教育委員会、文化財、環境関係の部署を訪ね、その区内の植物に関する情報の提供をお願いすることがしばしばあります。県レベルでも県全域にわたる情報を的確に短時間で与えられる準備があるところ、「そんなこと私たちが知る分けないでしょう!」といわんばかりな怪訝な顔をされる場所もあり、対応の程度は様々です。また、町というレベルで、よくここまで行き届いた調査を実施し、それを立派な書誌に纏めていて、いつでも誰にでも情報が提供できる体制になっているところに出会うと、その地域の住民と行政者の生活文化の質の高さを感じます。そんな自治体に行き着くと、ほっとすると同時に一寸大袈裟な表現かもしれませんが、日本の文化面も漸く青年期を迎えつつあるのだとうれしくなります。経済活動では先進国の仲間と自称しつつも、文化面での活動に幼稚さのみられたこの数十年の日本で、以下に紹介するような地方誌が出版されたということは、その県の21世紀への遺産の引継ぎというだけでなく、地方文化の成熟の1つの表徴とみることができる。今後の日本におけるそうした活動の雛形になるのではないかと期待できます。

本書は、千葉県史シリーズ(全51巻)の中の、「千葉県の自然誌」(12巻)の1つとして編纂されたもので、県民を対象にシダ植物を除く千葉県下の全陰花植物群(ここでは広義に、細菌類、らん藻類、菌類、地衣類も含めて)の紹介をおこなっている。構成、記述は若い中・高校生から年輩の県民まで、全ての年齢層の人が容易に理解できるように配慮されている。

本文は、第1章:細菌、ウイルス(55頁)、第2章:菌類の生態(30頁)、第3章:菌類(地衣類を含む)(47頁)、第4章:藻類の生態(67頁)、第5章:藻類(396頁)、第6章:コケ類の生態(15頁)、第7章:コケ類(59頁)、事項索引、和名索引、学名索引、用語説明で

構成されている。第1,3,5,7章において、個々の種についての解説がなされている。この巻の中で、最も力が込められているのは藻類に関する第4,5章である。章の中を藻が棲息する生態域の違いによって、「陸と淡水の藻類」と「海の藻類」の2つにわけて説明しているのは、一般市民はもとより、藻類学を専門としない研究者にも理解しやすい配慮である。

全体を通して、一般県民が理解しやすいようにとの配慮はその膨大な写真(しかもその大多数はカラー写真で、かつ殆どがこの本のために撮影したものを使う大変な努力が払われている;編集者と各著者の熱意に敬意を表したい)の数に先ず端的に表れている。約1600葉の鮮明な写真と、225の解説図、57の表がつかわれ、視覚的に理解できるようになっている。また、使用した活字の大きさも誰もが容易に読める配慮がなされている。

この巻で紹介されている種は数千を越えるとおもわれ、個々の種には解説と写真または図が付されているので、図鑑としても一級品なのである。大学の専門コースの学生にも、あるいは種々の環境行政に関わる方々にも充分参考資料となり、地方の植物誌とい枠を遥かに超えた、今まで見たことのない下等植物に関する充実した内容をふくむ本である。

このような素晴らしい本に、あえて二つほど注文を述べさせてもらいたい。このシリーズは図書館の書架に置かれる性格のものであるが、本巻はフィールドに持ち出されると一段と光り輝く本である。しかし、携帯するには重すぎる!書棚に置かれるだけでは価値は半減。もったいない!だから、2-3の分冊にならないか?この本が広く利用されるには、考慮に値するのではないだろうか。

約100数十種ほどについては記載だけで、写真がない。専門家にはあまりにもポピュラーな種(例えば、アラメ、ボウアオノリ)であっても、一般市民の立場で見れば、それらにも図または写真を付けてもらいたかったと思う。写真の無い生物にはとりつくしまがないからである。しかし、紙幅の制約もあることでしょうし、本書が県史という21世紀への文化の引継ぎを意図した企画であるので、記録という観点に立てば意義は十分にはたされている。

購入の方法:千葉県内の方は県内の書店で購入できる;県外の方は以下のところに申し込む:260-0013 千葉県中央区中央4-15-7 千葉県史料研究財団総務課(Tel 043-22-5100)。公費購入も受け付け。

堀 輝三(筑波大学生物科学系)